



Architecture
Presentation

architect
Tsutomu Hasebe

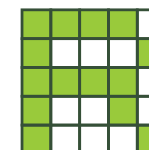
長谷部 勉



Bauhaus Project



建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



R+house

※建築家住宅(建築士の資格を持つ独立した建築家により基本設計された住宅)
主要供給事業者7社における2017年度、2018年度新築供給数
(株)矢野経済研究所調べ/2019年8月現在







担当建築家

長谷部 勉 H.A.S.Market@東京

Hasebe Tsutomu

敷地の固有性と生活の多様性を読解し、
その場所だけ、そこに住む人だけの豊かで快適な家づくりを心掛けています。
情報やイメージを共有しながら、ひとりよがりにならない設計プロセスを踏むことを
大切にしています。いかなる問題にも妥協することなく効果的な解決策を見出しながら
価値のある家をつくり続けたいと思っています。

Profile

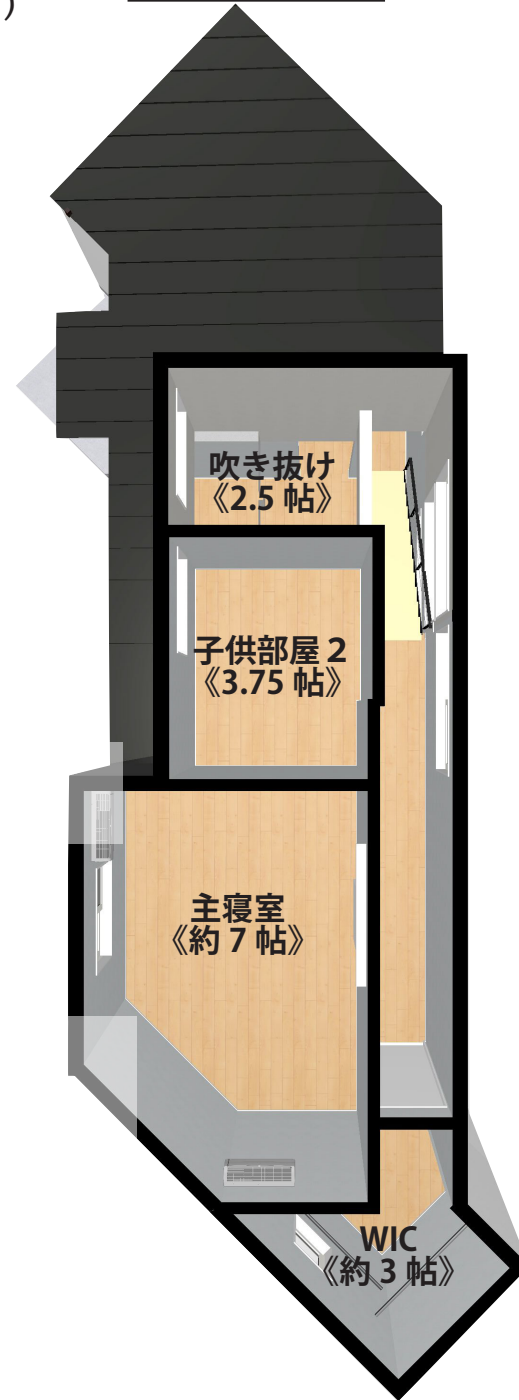
1968 年 山梨県出身。
東洋大学建築学科卒。
堀池秀人都市建築研究所、服部建築計画を経て、
2002 年に H.A.S.Market を設立。
東洋大学非常勤講師。

1F

敷地面積 : 63.79 坪 (210.90 m²)
1階床面積 : 17.12 坪 (56.58 m²)
2階床面積 : 9.42 坪 (31.13 m²)
延床面積 : 26.54 坪 (87.71 m²)



2F



共に在る家

POINT①

明るくて、開放感のある家がいい。
でもプライバシーには配慮してほしい。
相反する2つの要望を見事に叶える建築家の解決法とは？

POINT②

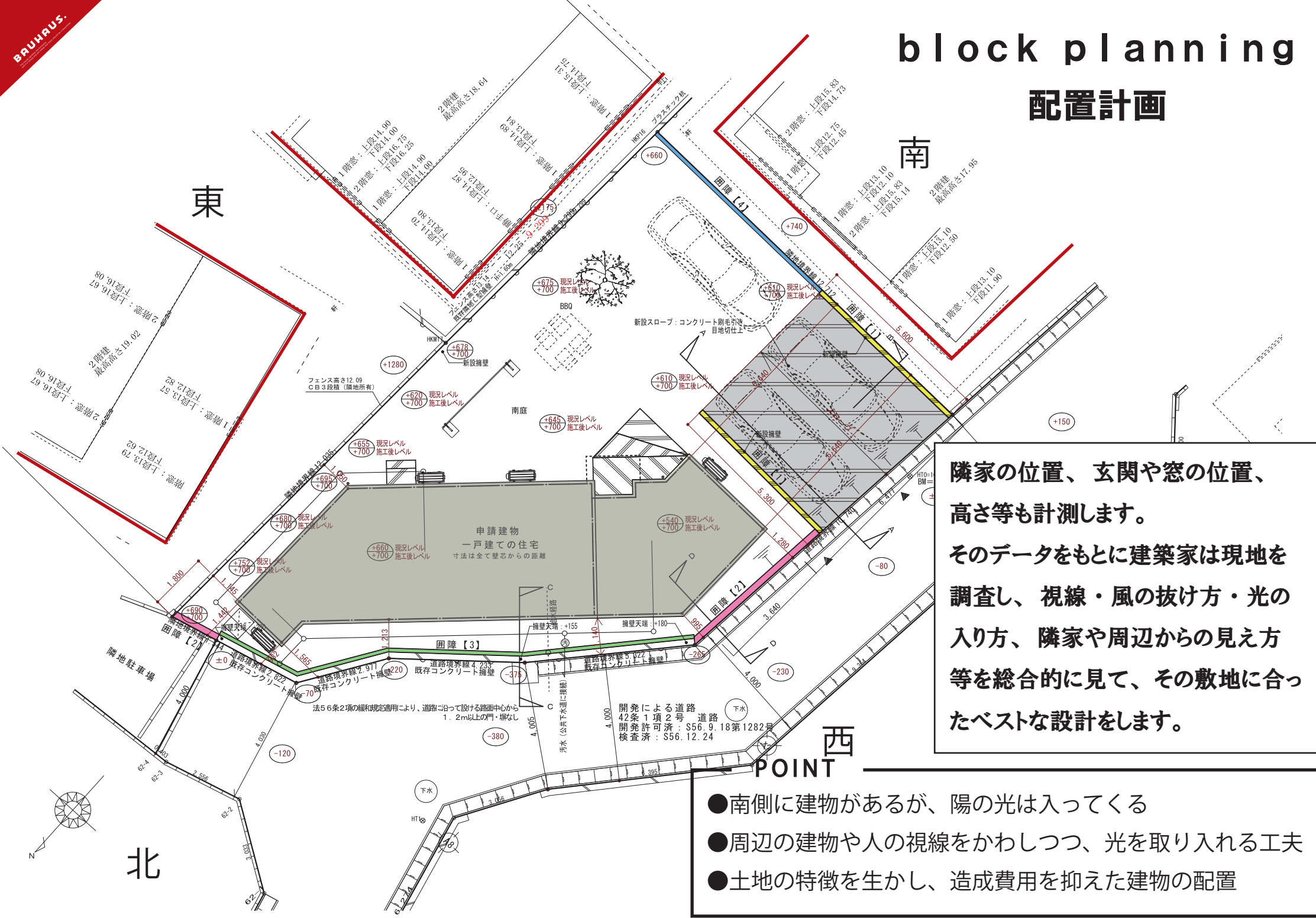
コストを抑えつつ、土地の特徴を最大限に活かした配置計画

POINT③

家族の成長やライフスタイルの変化で入れ替えができる間取り

block planning

配置計画



隣家の位置、玄関や窓の位置、高さ等も計測します。

そのデータをもとに建築家は現地を調査し、視線・風の抜け方・光の入り方、隣家や周辺からの見え方等を総合的に見て、その敷地に合ったベストな設計をします。

- 南側に建物があるが、陽の光は入ってくる
- 周辺の建物や人の視線をかわしつつ、光を取り入れる工夫
- 土地の特徴を生かし、造成費用を抑えた建物の配置

玄関/ポーチ/SCL/WC

土間収納スペース
(SCL)

玄関は雨の日などにずぶ濡れにならないよう、ポーチに屋根がついているといいなあ。シューズクローゼットみたいな収納が、玄関付近にあるのもいいなと思いますね

玄関の軒を延ばして雨除けを創りました。雨の日に傘をさしたり、カッパを着たりすることが出来ますよ。

また、玄関入ってすぐに土間収納スペース (SCL) を設けました。将来ここにベビーカーを置いたり、外用のコートやご主人の釣り道具を置いたりすることが出来ます。造作で可動式の棚にしていますので、ライフスタイルが変化したときも都度調整して使えます。

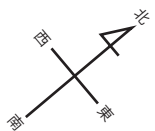


また、玄関の扉を開けた時にリビングが丸見えにならないような配置にしました。急な来客でドアを開けても、プライバシー性が守られるような間取りになっています。

トイレもリビングから少し距離を取っているので、ゲストが来た時も使いやすいかと思います。



1 F



建築家 POINT
プライバシー性を確保した間取り

LDK①



明るくて開放的な家がいいなあ！



でも、プライバシー性はしっかり守って欲しいので、そうすると窓とかが少ないほうがいいのかなあ・・・あと、めんどくさがりで掃除がラクなお家だと助かるかも。

▶道路側

なるほど。

それはつまり、プライバシー性が守られていれば、窓がたくさんあっても問題ないという事でしょうか？



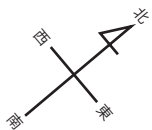
そうですね～。



窓の掃除も大変なので、多くはなくても良いのですが、そうすると明るく、つてのは難しいですね。

◀庭側

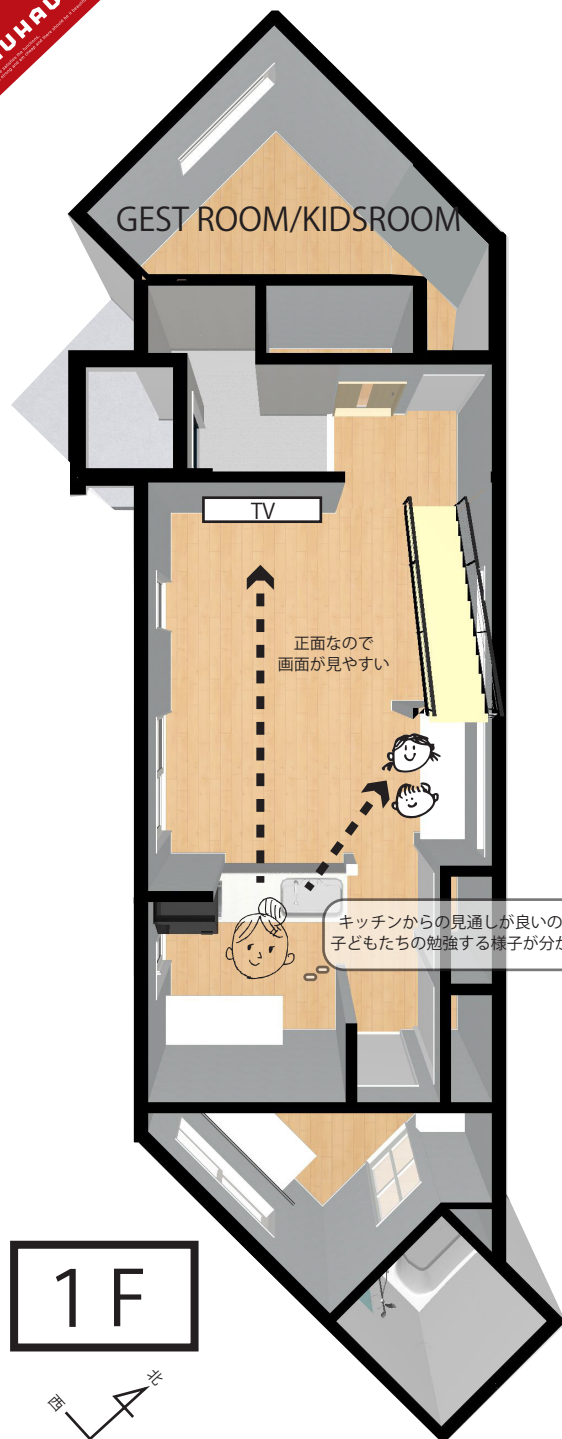
1F



建築家 POINT
要望 + α の提案

では、道路に面する北側よりもプライバシー性の守られている、南側に開いたLDKにしましょう。南側は周りの建物に囲まれている中庭のようになっていますが、建物自体を北側にめいっぱい寄せているので陽の光がよく入りますよ。窓の配置は、外からの視線をかわせるように工夫して配置しました。プライバシー性を守りつつ、明るくて開放的な空間になっています！





キッチンは、水がはねるのが嫌なので手元が隠れたほうがいいな～。
料理をしながらテレビをみたいです！今はまだ子供はいないけど将来子供が出来た時は、リビングで勉強してほしいと思っています。子供部屋もどうしようか迷っていて・・・！

キッチンを壁付けにして、テレビと正対するよう配置しました。
真正面なので、料理をしながらでも無理のない姿勢でテレビを見ることが出来ますよ。

また、キッチンに対して右手側に造作カウンターを配置しました。
しばらくはちょっとしたスペースとして、将来お子様が成長されてからは、宿題スペースとして使用することが出来ます。

お酒がお好き、とのお聞きしましたが、バーカウンターのようにお酒を並べて使われてもいいと思います！



なるほど！このカウンターはいろいろと使い勝手が良さそうです！

建築家 POINT
要望 + α の提案



また、子供部屋は 1F と 2F にそれぞれ 1 か所ずつ設けました。
お子様が小さいうちは 1F の子供部屋をゲストルームとして使ったり、ご主人の趣味部屋として使ったりする事も可能です！ 2F の子供部屋と合わせて、ライフスタイルの変化で入れ替えができるお部屋になりますよ。

建築家 POINT
要望 + α の提案



洗面・脱衣・ランドリー



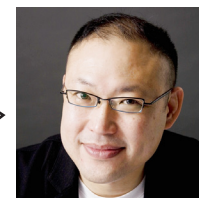
脱衣所は、タオルの他に着替えやパジャマを置けるようにしたいな！

洗濯物は基本外に干すけど、雨の日やお互い仕事が遅くなる日は取り込めないで、やっぱり部屋干しできるスペースも欲しいところですね・・・！

脱衣スペースを広めにとって、造作で幅広のカウンターを設けました。
カウンター上部に部屋干しスペースを作ることで、洗濯→干す→乾く
→そのまま着るなんてことも可能です！

着ないものはそのまま造作カウンターへ畳んでおいて置けるので、洗濯に関する家事動線が全てこの空間で完結します。

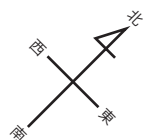
家事の時短になりますよ！



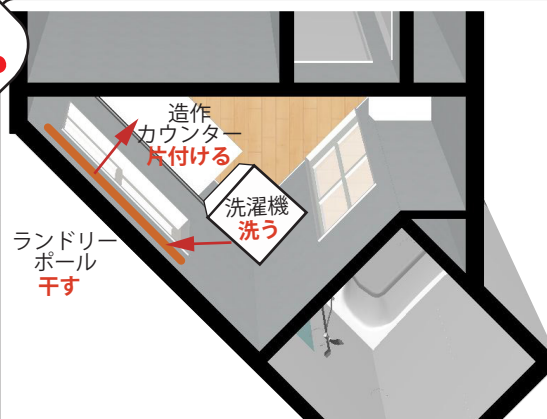
建築家 POINT
家事がグッと楽になる動線の工夫

キッチン～洗面
行き来しやすい距離感

1F



UP!

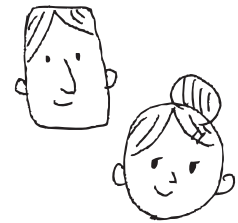


部屋着や作業着に関して
洗濯→干す→片付ける、
たったの3ステップで洗濯物
に関する家事動線をこのエリ
アで完結することも可能に。



わぁ～！これなら洗濯してすぐ干せるし、乾いた後もそのまま収納できますね！
家事が楽になるのは嬉しいです！

子供部屋・主寝室・WIC



将来、子どもは2人くらい欲しいなと思っていますが、**部屋をどうするか迷っています・・・**

子どもが小さいときは一緒に寝たらいいかなと思うので、主寝室は広いほうがいいですね。

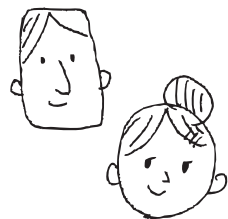
掃除と片付けをこまめにしなくてもいいように、**収納もたっぷり欲しい**です。

主寝室を広めに設け、その他に個室を2つ設けました。

一つは1F、もう一つは主寝室の隣です。

おっしゃっていたように、**お子様が小さい内は家族みんなで広々と寝て、個室が必要な年齢になったらそれぞれを子供部屋として使って頂ければと思います**。それまでは奥様やご主人の趣味部屋として使えるし、1Fはゲストルームの役割も果たしてくれますよ。

建築家 POINT
可変性のある間取り



なるほど！これなら家族のライフスタイルが変化したとき、お部屋を入れ替えることができますね！

2F

MAIN BEDROOM



土地の南側は隣家があるが陽の光が入るため、**植樹や窓の配置で視線をかわしつつ、庭に対して開けた面**となっている。

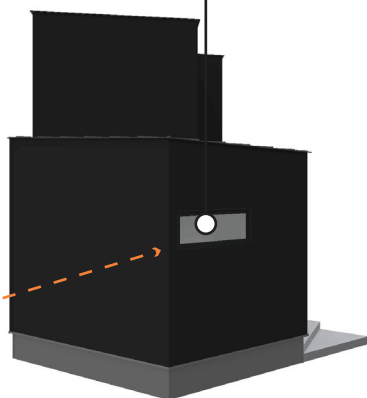
南



樹木等で目隠し

西側には道路があるので、**道路との高低差を利用し人の背丈よりも高い位置に窓が来るように計画して配置している。**

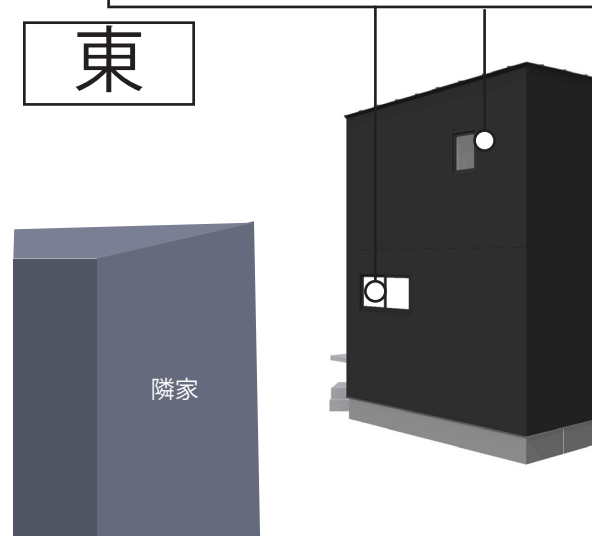
西



道路

東側にはすぐ近くに隣家がある為、**窓を減らしプライバシー性を確保。**

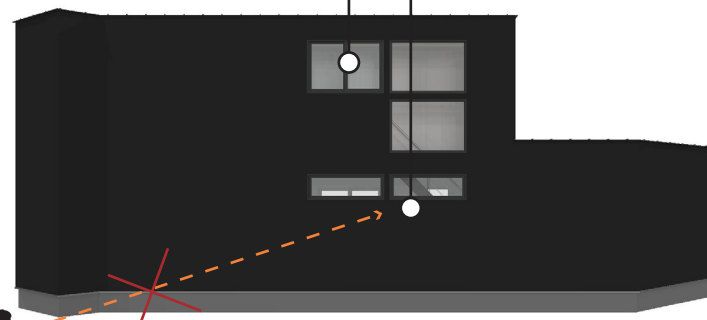
東



隣家

北側にも、西側同様道路があるので、**道路との高低差を利用し人の背丈よりも高い位置に窓が来るように計画して配置している。**

北



道路

熊本市風配図

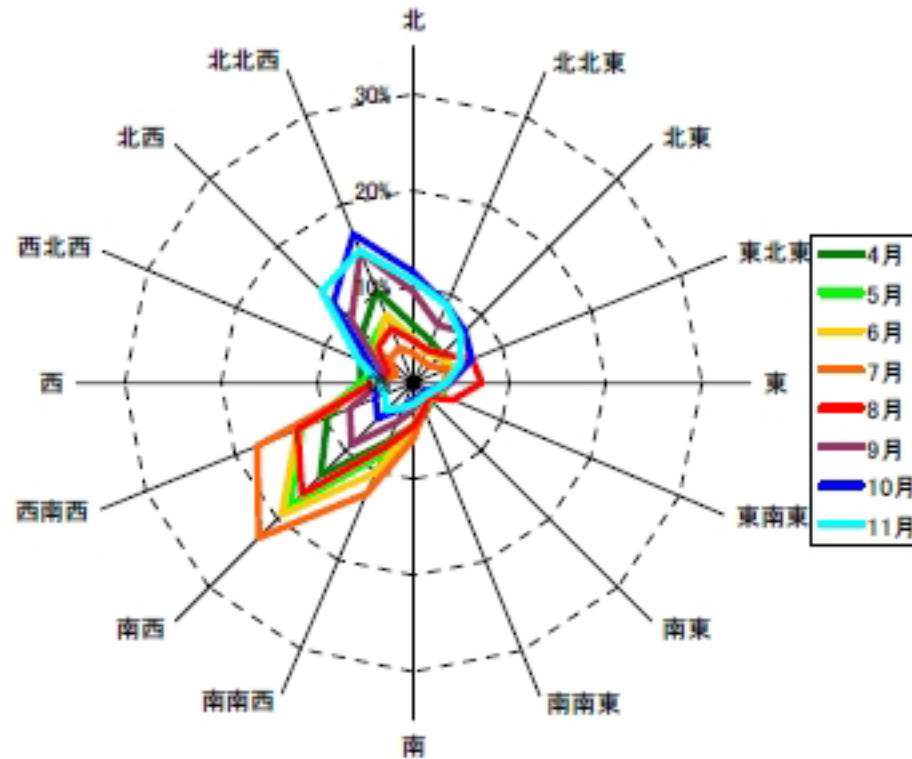


図4a 月別風配図(起居時)

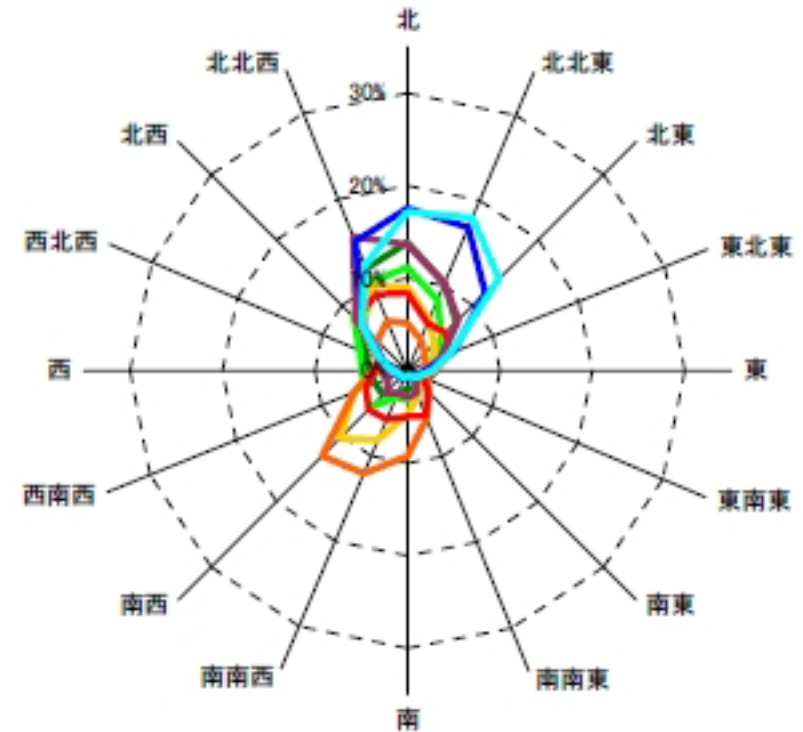


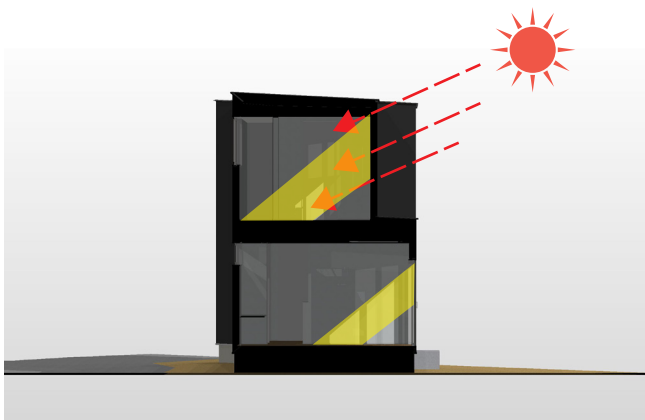
図4b 月別風配図(就寝時)

風配図とは、各方位の風向および風速の頻度を表した図です。

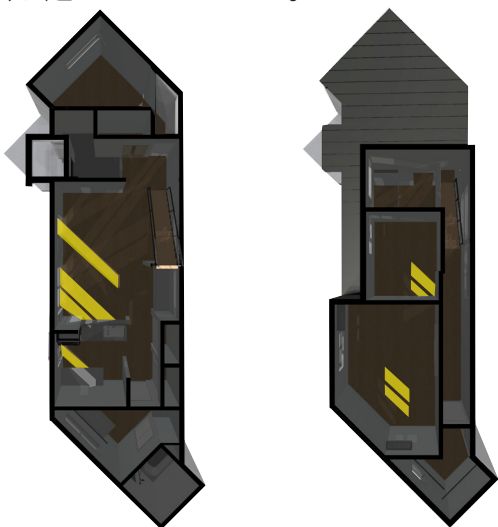
建築家は周辺の建物や環境を実際に目で見て、データと照らし合わせながら風の向きや、入り方なども計算して「窓の配置」「窓の種類」「建物の配置」を決めていきます。

冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく
自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

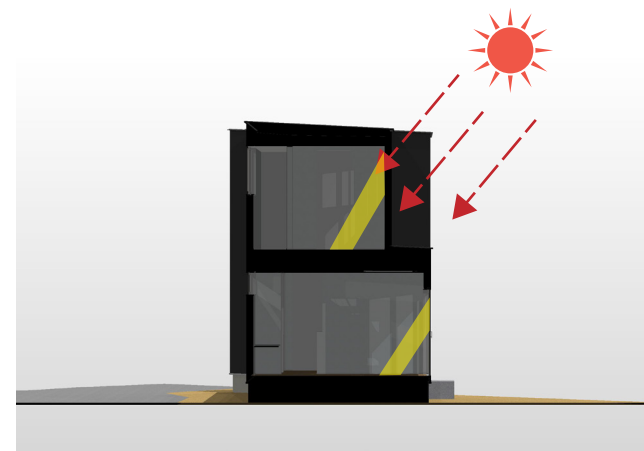
真冬午後12時



(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、太陽が西に傾く頃、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。



真夏午後12時



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。